

令和8年産

大崎稲作情報 第4号

令和8年7月2日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- ✓ 収量の増加や品質の向上のため、適切な追肥を行いましょう。
- ✓ 中干し後～幼穂形成期の適切な水管理を行いましょう。

1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

6月の気温は、第1半旬は高温でしたが、第2半旬から第6半旬まで低く推移しました。日照時間は第2半旬及び第4半旬から第6半旬において低く推移し、6月は全体を通して少照傾向でした。降水量は概ね平年並みに推移していましたが、東北南部が梅雨入りした6月20日から21日にかけて大量の降雨がありました。

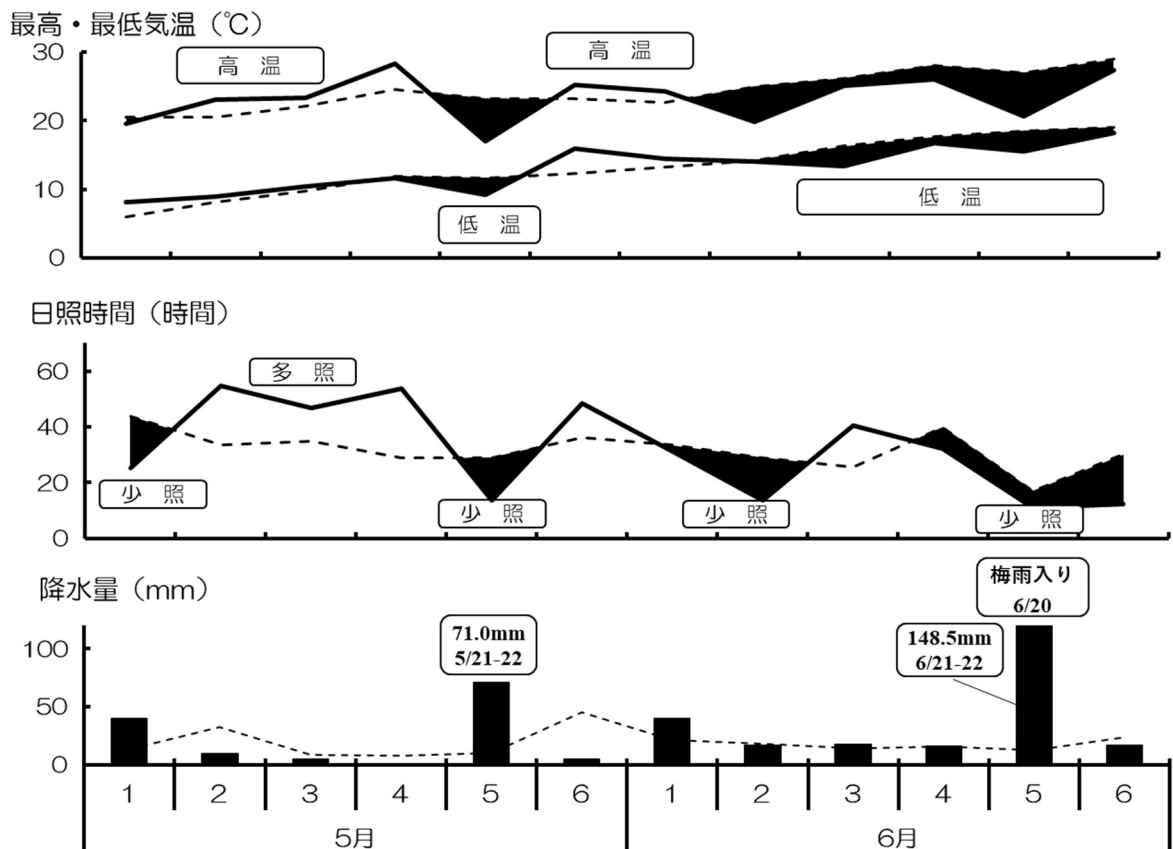


図1 5・6月の気象（古川アメダス）※前5か年平均値との比較

2 生育概況（7月1日現在）

6月第2半旬以降は低温であったほか、概ね少照で経過したことから、移植栽培では茎数・草丈は平年並みですが、葉色・生育量は平年を下回っています。原因として主に6月の低温による地力窒素の発現が抑えられたことや、日照時間の低下が考えられます。幼穂は0.1～0.5mmの長さで確認できました。

乾田直播栽培でも分けつが進んでいますが、ササニシキにおける目標茎数（6/25目安 460本～500本/㎡、7/15目安 720本～760本/㎡）に達しておらず、今後の生育が期待されます。

表 1 生育調査結果

栽培様式	品種名	地区名	前作	田植日 播種日 (平年・前年差)	7月1日					6月28日
					茎数 本/㎡ (平年・前年比)	草丈 cm (平年・前年比)	葉色 GM (平年・前年差)	生育量 茎数×草丈×葉色 (平年・前年差)	幼穂長 mm	正規化 植生指数 NDVI (前年比)
移植	ひとめぼれ	大崎石三本木	水稻	5月5日 (+1)	573 (99%)	56.0 (97%)	40.8 (-2.2)	13.1 (87%)	0.5	0.51 (68%)
	ササニシキ	大崎市古川	水稻	5月10日 (+3)	490 (96%)	51.8 (98%)	38.0 (-5.0)	9.6 (80%)	0.1	0.46 (69%)
	平均			5月7日 (+1)	532 (98%)	53.9 (98%)	39.4 (-3.6)	11.4 (84%)		0.49 (69%)
乾田直播	ササニシキ	大崎市古川	水稻	4月8日 (-20)	384 (94%)	45.9 (133%)	33.6 (+0.6)	5.9 (128%)	-	0.38 (77%)
		大崎市三本木	水稻	4月13日	494	48.0	37.5	8.9	-	0.65
	平均			4月10日	439	47.0	35.6	7.4		0.51

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。乾田直播はいずれもグレーンドリル鎮圧方式による。

※平年比・差は前5か年（令和3～7年）の平均値との比較。

※生育量は茎数/㎡×草丈cm×GM値÷10万で求める指標で追肥判断等の目安となります(3追肥を参照)。

※正規化植生指数は植物の光の反射特性を捉え簡易的な計算式で植生を示す指数で、数値は-1～1の範囲で示され、-1に近いほど植生は悪く、1に近いほど植生は良いとされます。表の値は県農業振興課で契約したBASF社ザルビオ®・フィールドマネージャーによる。

※大崎市古川乾田直播は昨年度から計測したため、前年値との比較。大崎市三本木乾田直播は今年度から計測。乾田直播の平均は今年度のもの。

3 追肥

基肥の窒素肥効が無くなり、籾数の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。近年は穂揃期の葉色低下や高温登熟により、白未熟粒等が発生し品質低下することが多くなりました。葉色の急激な低下（窒素栄養の不足）を防ぐため、適切な追肥を検討しましょう。

1) 追肥の主な効果

追肥は白未熟粒の発生軽減や光合成能力の向上等の効果に加え、表2のとおり施用時期によって異なる効果・影響が現れます。

表2 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

2) 生育量を基にした施肥判断

生育量が不足している（葉色が薄い、茎数不足等）場合には、追肥が必要ですが、過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥をする際は、

生育量＝茎数（本/㎡）×草丈（cm）×葉色（GM値：SPAD-502の値）÷10万
を倒伏診断指標として、追肥の実施を判断しましょう。

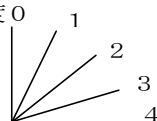
表4 「ひとめぼれ」、「ササニシキ」の倒伏診断指標

幼穂形成期(草丈×㎡茎数×葉色;10 ⁵)								減数分裂期(草丈×㎡茎数×葉色;10 ⁵)							
茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)						茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)					
		38	40	42	44	46	48			34	36	38	40	42	44
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4	550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8	550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3	550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7	550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8	600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5	600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5	600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2	600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0	650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8	650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7	650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	700	60	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8	700	65	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9	700	70	16.7	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1	700	75	17.9	18.9	20.0	21.0	22.1	23.1
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2	700	80	19.0	20.2	21.3	22.4	23.5	24.6

倒伏危険域

- I 倒伏度2を超える確率5～20%
- II 倒伏度2を超える確率20～50%
- III 倒伏度2を超える確率50%以上

倒伏度0



3) 各品種の追肥の目安(施用時期・施用量)

品種によって施用時期・施用量が異なります。施用時期と葉色を判断し、適正量を施用しましょう。「だて正夢」の幼穂形成期までの生育量が少ない場合は、幼穂形成期・減数分裂期にそれぞれ「窒素成分 1.0kg/10a」ずつ追肥することで、適正粒数の確保に努めましょう。

表5 追肥の目安

品種名	幼穂形成期(幼穂長:1~2mm) 出穂25~20日前		減数分裂期(幼穂長:30~120mm) 出穂15~10日前	
	施用量 (N成分/10a)	葉色(GM値)	施用量 (N成分/10a)	葉色(GM値)
ひとめぼれ	1.0kg	38~40	1.0kg	35~37
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg	32~34
つや姫	2.0kg	35~37	—	—
だて正夢	—	—	2.0kg	37~39
金のいぶき	1.0kg	33~35	1.0kg	30~32
まなむすめ	2.0kg	35~37	—	—

4 いもち病防除

近年、いもち病による減収被害は減収傾向にありますが、葉いもち、穂いもち共に県全体の発生が少ない場合でも、被害程度の高いほ場が散見される年もあり、全県的に予防防除が徹底されているとは言えません。

1) 葉いもち

葉いもち病は、葉では円形~楕円形で灰緑色、水浸状の病斑を生じた後に、ひし形で中央部灰白色等の病斑が生じます。直接収量や品質に影響を与える穂いもちの伝染源にもなって

おり、上位葉での発病は穂いもちの発生と高い相関があります。

今後の天候は平年と同様に曇りや雨の日が多くなるため、葉いもちの感染好適日が発生することが予想されます。感染好適日が県内広域で出現した場合、約2週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。ほ場を見回り、発生に注意しましょう。本田で発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤を散布しましょう。

感染好適日は宮城県病害虫防除所のホームページを確認できます。

2) 穂いもち

穂いもちは首いもち、枝梗いもち、籾いもち、穂首いもちの総称です。出穂後2～3週間以内にいもち病菌の侵入を受けると収量、品質が著しく低下します。

例えば、穂首いもちの症状は、穂首に暗褐色紡錘型病斑を生じたのちに、すぐに穂首節全体に暗褐変し、のちに灰褐色になります。病斑は中央が灰褐色～茶褐色、周辺部が濃褐色～黒褐色となり壊死します。病変部から先端は萎凋枯死して白穂化します。

茎葉散布剤を散布する場合は、出穂直前、穂揃期及びその7～10日後の3回防除を徹底しましょう。さらに気象条件や稲の生育状況、病害の発生状況を考慮し、必要に応じて補完防除や追加防除を実施しましょう。



穂首いもちによる白穂

5 水管理 幼穂の発育には水の吸収が不可欠

✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。

用水不足が予想される地域では、**飽水管理**（田面が浸るくらいに水を入れ、足跡に水がなくなる頃に水を入れる）を行い節水に努めましょう。

低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがあるので、深水管理を行いましょう。

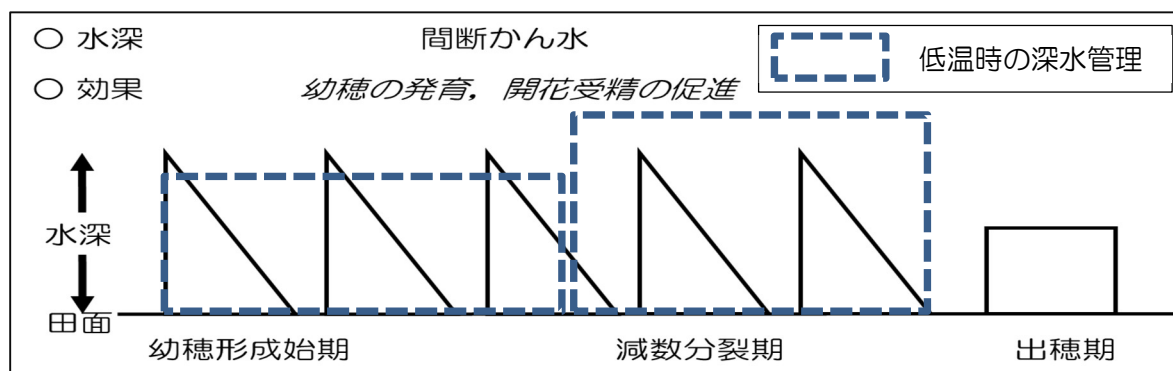


図2 今後の水管理

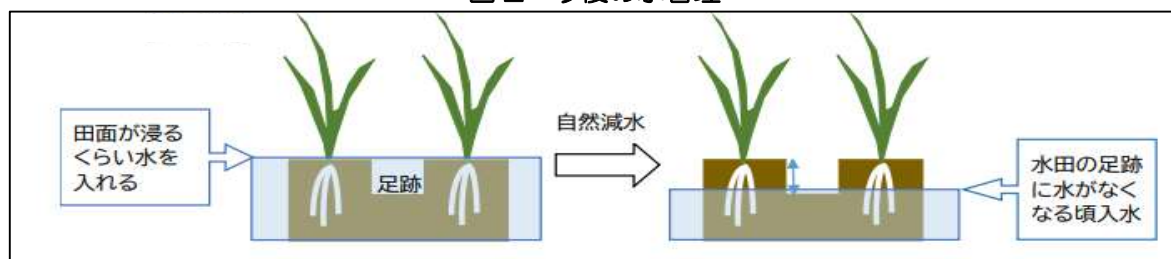


図3 飽水管理のイメージ

東北地方 1 か月予報（6月27日から7月26日までの天候見通し）

令和8年6月25日 仙台管区气象台 発表※抜粋

＜予報のポイント＞

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう

＜向こう1か月の天候＞

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気 温】	東北地方	20	30	50
【降 水 量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	20	50	30
2 週 目	東北地方	20	30	50
3～4週目	東北地方	20	30	50



◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆

農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

★★

古川農試に設置されている生育モニタリングほ場（「だて正夢」・「金のいぶき」・直播栽培）や県内全体の水稻生育情報はこちらからご覧いただけます。

＜<https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzyoho/index.html>＞

★★



「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右の QR コードを読み取ってください。

